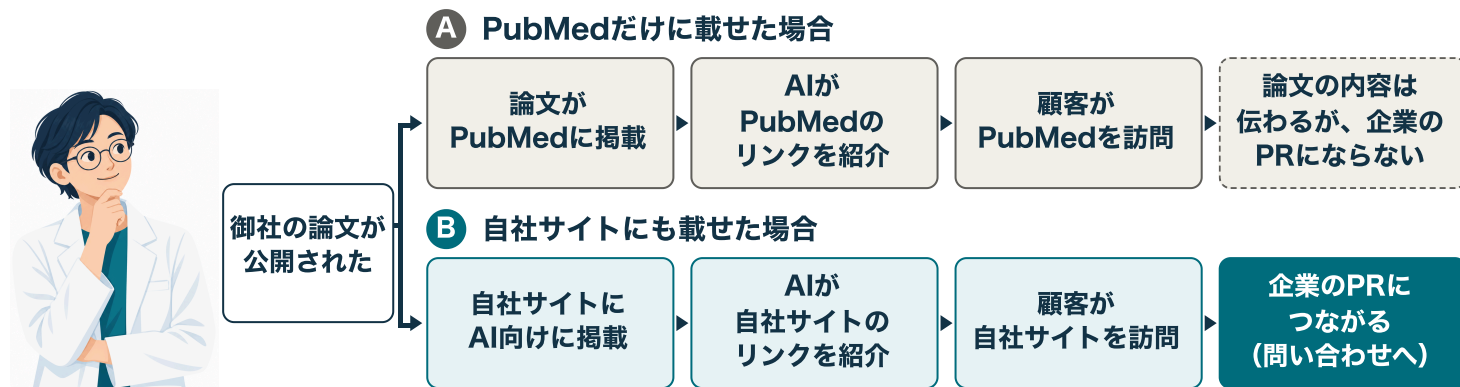


研究成果・論文は、どうすれば AIの回答に取り上げられるのか

学術論文を自社Webサイトで紹介し、半年間・毎週AIの回答を確かめた結果
腸内細菌の論文を題材に、AIの回答への出方を毎週記録しました。

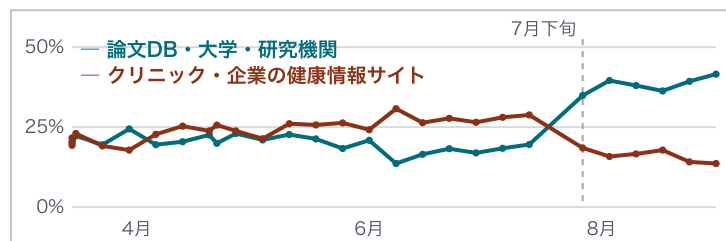
調べものを、検索ではなく、AIへの質問から始める人が増えています。
探す側のAI利用は進みましたが、研究成果を発信する側の対策は進んでいません。

御社の論文は、どちらの道をたどりますか？



※イメージ図。顧客の行動は想定です。

AIは学術的なエビデンスが確かな情報をより引用するようになりつつあります



グラフ：AIの回答の根拠に占める割合（27回）

- 論文DBや大学・研究機関の割合
約20% → 約39%
- クリニックや企業の健康情報サイトの割合
約25% → 約16%

※Perplexityでの自主調査（査読なし）。2026年3～8月、30の質問。

プログラム

- 16:00 自己紹介／AI検索の背景 — 探す人は、もうAIを使っている
- 16:09 研究成果への影響 — 探す側は進み、探される側の対策は進んでいない
- 16:15 実際にAIで探す — デモ、選ばれるページは？
- 16:27 探される側の実践 — 論文を自社サイトで紹介し、半年間・毎週確かめた結果
- 16:47 企業・研究機関は何をすべきか — 基本の対策、外注するときの注意点（質疑を含む）

登壇者 桑原 知巳（くわはら ともみ）／医学博士



香川大学医学部 分子微生物学 教授

「腸内細菌とヒトとの共生メカニズムをゲノムから紐解く」
腸内細菌のゲノム解析が専門。題材の論文
(Scientific Reports 2026年) の責任著者。

富士川 凛太郎（ふじかわ りんたろう） ／博士（工学）



株式会社simpleA 代表取締役

日立製作所を経て、2025年まで腸内細菌スタートアップ
の取締役。現在は食品・ライフサイエンス企業を中心にAI
検索対策に従事。題材の論文の共著者。

日時 2026年12月9日（水）16:00-17:00
形式 オンライン（Zoom）／お申込みの方に視聴URLをお送りします
参加費 無料／定員100名
対象 製薬・バイオ・医療機器・食品・素材メーカー、
および大学・研究機関の、研究開発／事業開発／広報・マーケティングのご担当者
主催 株式会社simpleA / お問い合わせ info@simplea.cc